

大学発ベンチャービジネス実践論 -体験談と精神論-

ファイヤー和田 知久

wada@ie.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学・工学部・情報工学科 教授

北陸先端科学技術大学院大学 教授(併任)

<http://bw-www.ie.u-ryukyu.ac.jp/~wada>

マグナデザインネット社最高技術責任者

<http://www.MagnaDesignNet.com>

ファイヤー和田 自己紹介



- 1959年12月2日生まれ(42歳)
- 阪大電子工学科卒業後、三菱電機LSI研究所
 - 6種のSRAMを量産化
 - 3種のインテルPentium用パイプラインドCache設計リーダー
 - 3次元グラフィックス用描画LSI米国設計チームメンバーなど
- 1991年スタンフォード大学にてコンピュータH/Wの修士
- 1994年阪大からコンピュータCache関連で工学博士
- 1999年三菱電機を退社(39歳)し、琉大工学部・助教授
- 2001年3月デジタル通信LSI設計ベンチャー会社設立
 - マグナ・デザイン・ネット社@那覇・沖縄
- 2001年4月琉球大学・工学部・情報工学科教授

和田知久はどんな人間？

- 分析1：大学時代のYMCAのボランティア仲間
 - 「一見何事にも精一杯取り組むようで、時にさっと流す両面性をもつ。」
- 分析2：会社時代のプロジェクトの先輩
 - 「対人関係はよく、通常は理性をもって仕事に取り組むが、時に信じられないような大胆な行動にでる。あだ名はサンダー和田！（突然雷のように凄いパワーを出す）」
- 分析3：長年一緒にいる妻
 - 「くったくなく愉快で、ものごとにこだわらない。いつも本音であるがまま。」
- 分析4：自分
 - 「他人や本の言う理屈をすぐには信じない。自ら納得しないと信じられない。」

OUTLINE

- 1部：体験談のお話
 - マグナデザインネット社紹介
 - 会社設立の決意から、創業
 - 私たちが感じ、考えたこと
- 2部：
 - ベンチャービジネスを論理的に取り扱う
 - 5つの精神面のポイント
 - 創業から守成への志

2002年7月18日の日経新聞 & 日経産業新聞

新LSIは半導体関連ベンチャー、
マグナデザインネット(那覇市、
松尾龍一社長)と共同で開発した。

勝ち抜く企業
マグナデザインネット



マグナデザインネット社紹介

マグナ社が経営戦略発表

[illegible][illegible]

沖縄タイムス 平成12年7月21日

日経新聞 平成13年12月12日

リーダー 琉球大学和田知久教授

九州



沖縄、連携VBに期待

IT産業の振興へ道

[illegible]

琉球新報 平成14年元旦

2002年(平成14年)1月1日 火曜日 玉京 王城 鹿戸 津段

マダガスカル

マダガスカル・ネット
（東京都・松尾組一社）
マダガスカル・ネット
（東京都・松尾組一社）

通信用LSI
流大と開発中

通信用LSI
琉大と開発中

[illegible]

<<< 会社概要 >>>

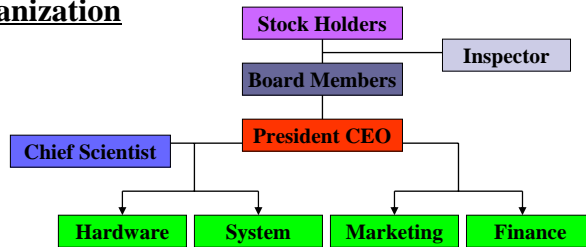
- 会 社 名 : 株式会社 マグナ・デザイン・ネット
- 設 立 : 2001年3月5日
- 所 在 地 : 本社デザインセンター、産業センタービル3F
TEL&FAX 098-857-5551, <http://www.MagnadesignNet.com>
中央開発センター(沖縄県西原町千原)
- 総 資 本 金 : 12,200万円
- 役員 代表取締役社長 : ダイナマイト 松尾龍一
取締役 : 和宇慶 康、村上 修二
監査役 : 平野 悠
チーフサイエンティスト : ファイヤー 和田知久
- 事 業 概 要 : デジタル通信LSIの設計、ライセンス供与、
LSI製品、設計ソフトウェア、デモシステムの開発・製造・販売
- 取 引 銀 行 : 沖縄銀行本店、琉球銀行本店、みずほ銀行那覇支店

<<< 会社沿革 >>>

- 2002年07月 : (株)メガチップスと共同開発・製品化をプレスリリース
- 2002年04月 : 本社デザインセンターを拡張のため移転！
- 2002年02月 : 総資本金 12,200万円に増資！
- 2001年12月 : 資本金 9200万円に増資！
- 2001年10月 : 創造法の認定を取得！
- 2001年8月 : 特定企業と通信LSIの共同開発及び商談を開始！
- 2001年7月 : 本社デザインセンターで活動開始！
- 2001年5月 : 琉球大学と通信用LSIの共同開発を開始！
- 2001年3月 : 会社設立！資本金5150万円！

<<< 組織と社内風景 >>>

Organization



Snap photo

New HQ & Design Center



Development Center



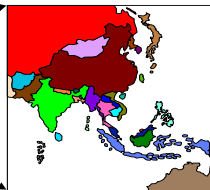
Discussion in the garden



<<< 拠点場所 >>>



Okinawa,
Japan



Magna Design Net, Inc.

1831-1 Oroku Naha-City, Okinawa,
Japan Post No. 901-0152
Industrial Support Center 3F
(Near the Naha International Airport)

<<< 創業理念 >>>

社名: **Magna**は**Magnanimity**の意である。壮大の意味。

創業理念: **次世代通信システムでの高性能・最先端LSIを提供し、**
社会の発展に貢献する。精神的な豊かさを持ち、個人の能力を最大限に
発揮させ世界トップレベルの競争力で、独自の市場を確立する。

カルチャー: **過激に挑戦し、全てを切り開き、変えていく。**
新たな世界に立ち、さらに次の世界を見る。

- 1) デジタル通信分野で、特に今後重要な車載電子機器やPDA、携帯機器等をターゲットとした移動体での無線大容量通信の独自復調LSIとそのアルゴリズムの開発を行い、通信システムの高性能化を成し、より高度なIT社会の実現に貢献する。
- 2) 低コストのアジア諸国等の生産基地と連携しアウトソーシングを行い、高性能・低価格な製品を市場に供給することで、IT技術の普及に貢献する。
- 3) 短期間・高品質で設計開発を行うために、最先端のコンピュータによる設計支援ツールEDAを活用し、絶えず、生産性の向上を目指す。
- 4) 大学等の研究機関と密接に連携し、効率よく新技術を開発し、また学生らに現実の仕事を経験する場を提供し、より高度な人材の育成を目指す。

<<< キーメンバー紹介 >>>

President & CEO, Dynamite Matsuo

Designed & managed a lot of memory LSI's.
 Worked in Silicon Valley (USA) for LSI's
 marketing and design-win.

General Manager, Yasushi Wauke

Designed many system on chip LSI.
 Managed consulting design group at EDA
 (USA) tool vendor.

Chief Scientist, Fire Tom Wada

Designed many memories & system LSI's.
 MS of Stanford Univ. (USA) Doctor of eng.,
 Professor at Univ. of the Ryukyus.

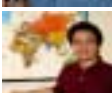
R&D Director, Shuji Murakami

Designed many digital broadband LSI's.
 Doctor of eng., MS of UCLA(USA)
 under Prof. Samueli (Broadcom/USA)

Hardware Sinea Manger,

Kunio Morimoto

Designed special system LSI's for big Net-
 Work Systems. Managed engineering group
 for broadband LSI at EDA(USA) tool vendor



Hardware Manager, Hajime Touma

Developed special software for space project.
 Engineering support of LSI design tool
 systems at EDA(USA) tool vender.

Business Manager, Sada Sakaguchi

Designed and produced memory LSI's.
 Worked for LSI marketing for network
 companies in Europe (EU).

Hardware Manager, Hiro Mizutani

Developed digital cable and satellite digital
 LSI's. Specialist of the design tools especially
 SPW and LSI design WS.

Hardware Manager, Mitsuru Hori

Developed digital cable and satellite digital
 LSI's and DSP. Worked with USA company
 for DIRECT TV's LSI.

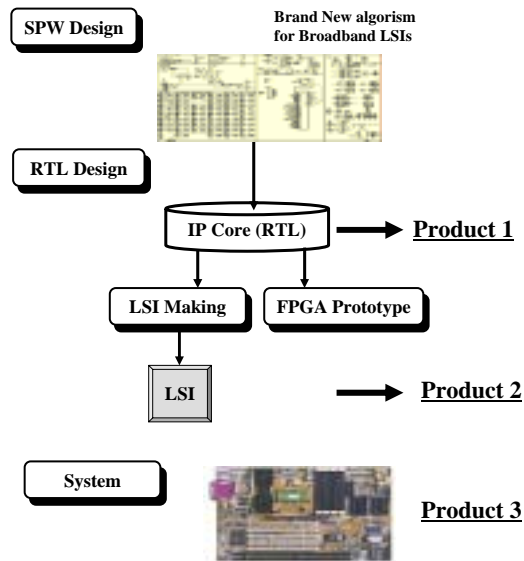
Hardware Engineer, Hirokazu Asato

Engineering support of LSI design tool
 systems and FPGA compiler at EDA(USA)
 tool vender.



Univ. of the Ryukyus --- Already joined
Univ. of Kyusyu LSI research center
 Planning joint development near soon.

<<< サービスの紹介 >>>



<<< プロダクトの紹介 >>>

<プロダクトの大枠>

- 1) LSIのRTLデータ(IP)の提供
- 2) LSI最終製品の提供
- 3) LS設計データの構築のサポート (計画中)
- 4) システム(ボード)の提供 (計画中)

<プロダクトのアプリケーション対応>

当社は、次世代情報通信用LSIシステムにおいて世界トップクラスのLSI設計技術力を持ち、各種製品の開発に。次世代デジタル通信システムのキーテクノロジーのOFDMのラインナップをはじめ各種通信用LSIのIP及びLSI製品をご提供します。また小規模のIPやフルチップのIPまで用意しています。以下がその一例です。

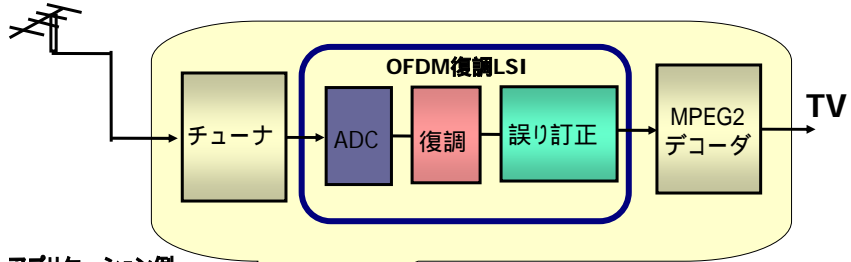
- (1) 地上波デジタル放送用復調LSI < 日本仕様 >
13セグメントフルスベックOFDM ハイビジョン対応
1セグメントOFDM 携帯機器対応
ハイビジョンから移動体TV・ラジオ用途まで各種

- (2) 欧州標準仕様、その他
各種タイプ別復調LSI部OFDMコア

- (3) ワイヤレスLAN用復調LSI
IEEE802.11a, 5GhzワイヤレスLAN用OFDMコア、次世代ワイヤレス用OFDMコア、他

<<< 地上波デジタル放送の一例 >>>

地上波デジタル信号



アプリケーション例

- ・据え置きTV
- ・簡易移動TV
- ・カーナビTV
- ・PDA、携帯機器
- ・PC、など



日本国内地上波デジタルTV向けスペック

- 広帯域ISDB-T
- 最大3階層多重

HDTV 1ch / SDTV 2ch + Audio 1ch / etc.

- Mode1(移動体受信向) ~ Mode3(固定受信向)
- TMCC信号による伝送パラメータ制御

会社設立の決意から、創業

なぜ、ベンチャービジネスを始めたのか

- 行動が遅く、責任や権限がいい加減な日本の大企業は近いうちにダメになるので、21世紀に飛躍する新しい会社を作ってみたかった。
 - SONYもPANASONICもそんな会社だった
- 11月から5月の沖縄がシリコンバレーと気候がにっていたので、沖縄でシリコンバレーのような会社を始めようと思った。
 - 一番東京から気持ち的に遠い沖縄でやることに大きな利点を感じた
- 一生懸命働くことに喜びを見出せる会社を作りたいかった。
 - 楽しく、忙しく、生き生きと日本人だってやれるはず。

会社作りの大きな疑問

- 始めて会社をつくるのだから -

- ベンチャービジネスをやりたい気持ちは私だけでなくみんな持っているはず。
- しかし、どうすればいいのか？
 - 何をして儲けるか
 - 人はどうしてあつめるか
 - 金はどれくらい必要か
 - 金はどうして集めるか
 - 技術はいるのか
- ベンチャービジネスとは何か？？

まず最初に私がしたこと

- 「やりたいことを紙に書く!」 2000年7月14日(金)
 - 考えているだけでは不完全、企画書にする必要がある。
 - 結局は企画書とは大きく異なる会社になってしまったが。
- そして5人の協力者をすぐさま得ることができた。
 - 計画はいい加減であるが結局は「熱意」だけで賛同者があつまった。結局は理論的説得ではなく、恋のような感情が人たちを動かした。
 - (和田の感じる重要なこと)理屈・理論に頼ると遅れるし、間違う、直感や感性が重要。
 - 日本橋に決めた電化製品を買いに行っても、結局偶然に気に入った違う物を買ってしまう。そして、後からその理由をもっともらしくつける。

中核メンバー

- ダイナマイト松尾龍一(45歳)現マグナデザインネット社長
 - 大手電気メーカのシリコンバレーのマーケティングディレクター
 - 和田の長年の仕事パートナーで信じれる先輩
- ファイヤー和田知久(42歳)
 - 大手電機メーカで多数のLSIの設計リーダー、インテル社対応のリーダー
 - Stanfordの修士で、琉球大学情報工学科教授
- 和宇慶康(45歳)
 - 沖縄出身で、本土企業で20年の開発・マネージメント経験
 - 企業ファイナンスで極めて重要な信頼できる
- 村上修二(39歳)現マグナデザインネットR&Dディレクター
 - 和田の後輩で超パワフル、大手電機メーカで開発リーダー
 - Broadcom社Samueli教授のもとで UCLAのデジタル通信の修士号
- 平野悠、社外取締役、シーケンスデザイン日本社長
 - 半導体回路合成S/W世界一の日本シノプシス元社長
 - 沖縄にデザインセンターを作る熱意をもっておられ、琉大に協力
- 赤坂洋一、北陸先端技術大学院大学先端技術調査センター長
 - 半導体製造装置世界一のアプライドマテリアル副社長、日本法人社長
 - 和田の10数年前の上司で、和田の琉大転職時にベンチャーを勧める

最初の血気(決起)集会

2000年8月28日、シリコンバレーから来た松尾、東京から戻った村上、沖縄から来た和田が尼崎に集まり、会社設立で結束した。その時、松尾のいいそこ間違いのマグナという言葉から会社名が決定した。(プロジェクトX風ナレーション)



「会社作りの大きな疑問」を解く！

- ベンチャービジネスとは何か？ -

- 2000年8月-2001年1月に、15社・40人以上の経営者レベルの方々に合い。自分の疑問の答えを探した。
 - 東京: 大手電機メーカー数社、半導体系ベンチャー3社、外資系半導体EDA会社
 - 横浜: 大手メーカー、外資系半導体製造会社
 - 大阪: 中堅半導体会社・福岡: 半導体ベンチャー会社
 - シリコンバレー: ネットワークシステム会社、PC用記憶装置会社、半導体下流設計会社、DSP関連ベンチャー
 - ロサンゼルス近隣: ネットワークLSI会社

小企業とベンチャー

- ベンチャーは自分達の技術等の実力で市場をある程度コントロールする必要がある。
- すなわち、ある製品や分野で他を左右する実力が必要。
- 単なる小さな企業でも、大企業の仕事の下請けだけに頼るのでは「大企業を辞めてベンチャーを始める意味がない。」

ベンチャーは忙しいが楽しい

- 自分達のやりたいことを、自分達で考え、やりたいようにやる。
- だから人並み以上に働いても、自分の金をつぎ込んでも楽しい。
- (和田の感じる重要なこと) 日本では仕事をあまりせずブラブラしているのが「金持ち」の印象もあるが、特にアメリカのベンチャーの方々は普通の人々の2倍以上の時間働き、10倍以上の結果を出しているように思う。
- 彼らの時間の進み方はまったく違う。

2つの失敗の形態

- ベンチャーは危険すなわち、潰れるかもしれない。
- そこで、潰れにくそうな政府系の仕事や大企業の下請けを「安全」のためにやりたくなる。
- しかし、実はもうひとつの安全弁がある。それは予想もしない誰かの助けである。
- もうひとつの安全弁を有効にするためには、
「失敗するにしても、前向きに倒れる」
「あなたの行動を誰かが見ている、前向きに倒れなければ誰も助けてくれない」
- すなわち、自分達のやりたいことを自分達の方法で実行し、結果を出す精一杯の努力を続ける必要がある。
- 他を頼りながらの失敗は「後ろ向き」の失敗であり、安全弁が働かない。

なぜ、失敗を恐れずにいられるか

- 人間は弱い、事業の失敗は怖い。
- 陽気な私でさえ、たまにLOWテンションになる。
- 私の場合は
 - 「前向きに倒れる」ことにより安全弁があることを信じることで、精神の安定を保ってきた。
 - 信じるものは救われる???
 - 努力して本当に有効な技術を保有することで、自分達の価値を高めることで、その価値により自分達の生存意義があることを信じることで、精神の安定を保っている。

技術者は傲慢？本当の実力者は謙虚！

- 会社経営や方針立案で大切なのは、数時間や日をおいて考えること。
Sleeping on the problem.
- どうやら人間の脳には絶対基準がないようである。赤いものばかりの世界にいと赤が普通になり、赤も白く見える。
- 数名の個性の異なるメンバーと頻繁に会話をして、自分の絶対基準を補正する必要がある。
- 結局、ショツチュウ「飲む」ことになってしまう。
- あなたが、本当の実力者なら仲間や上司・部下の言う意見を「素直」に「謙虚」に聞くことができるはず！

考え方をあまり知らない日本人

- 以前いた会社で有能な部下が数人いた。
- 彼らに斬新な設計案を出すと、ほぼ必ず「そんなの無理ですよ！」との答えがすぐさま返ってくる！
- 「俺は何日もかけてこの案が実現できることを考え抜いて提案しているが、たかが数秒で無理かどうかわかるわけがない！」と思う
- 日本人の考えるは「自分の過去の経験にあるかどうかを調べるだけ」であり、経験がないと「無理」とか「知らない」という答えが返ってくる。
- この考え方を知らないことが「マニュアルのないベンチャー創業ができない最大の理由である。」

セクショナリズム・専門・無責任

- 社会でも結構、仕事の責任をじわじわと精神的に追い込む(いじめる)風潮がある。
- 失敗すれば「減給」や「罰則」を与えればよい。
- 要は「心」はいつもHAPPYにしておくことが最重要。
- (和田の感じる重要なこと): 物や金より心が重要、心をいつもHAPPYにしておけることが最大の幸福である。これがパワーの源！
- しかし、日本では精神的罰則がある。
- もっとも厳しい精神的罰則を避けるために、責任回避が日本では重要となってるように思える。
- 罰則のないルール: 日本ではたまに罰則のないルールがある。これは、精神的みえない罰則を前提にしている。
- アメリカでは罰則のないルールは誰も守らないだろう。私もだが。。
- 責任回避のために、日本ではセクショナリズムが強く、大学では専門分野が細かい。結果的に誰もが責任をとらない、空白地帯がいっぱいできる。

議論せよ！というが議論できない日本人

- 海外から戻ってきた友人が、日本のTVは議論するような番組がよくあるが、こんなの米国ではないと言っていた。
- こんな人の議論は米国では誰も聞かないであろう！とのこと(実際に政治家の議論をみると)
- 単に交代で発言しているだけで、相手の発言を解析してそれに対応して発言はほとんどしていないし、
- 議論に結論はない！
- 要は不毛な議論が多い！ = 日本人は本当にアホかと思う！
- 逆に本当に争点がかみ合うと、感情的に喧嘩になる！
- 「よく議論して」と言うコメントがあるが、本心はすぐに変化を起こすことに恐怖や不慣れを感じているのではないだろうか？

アメリカの学校教育

- 子持ちで米国駐在していた友人の言葉：
「うちの娘は学校で、いつも他人と違うことを言おう（しよう）とズート考えて生活するのが普通なので、帰国後ちゃんと日本の学校で生活できるか不安です。」
- ある高校での授業：
「直線とは何か」というテーマで各子供たちが自分の意見を次々に述べてゆく、時間をかけて個性ある発言を引き出すトレーニングである。
- アメリカでは個性と自立が教育のテーマですね！

日本人はやはり幼稚か？

- 私の経験では日本人の自立は社会で苦労し、他部門との仕事の関係をもつような年代(35歳ごろ)にならないと自立できないように思う。
- 上に認められようとする文化で、上を抜こうとする文化ではない(これが悪いとも言えないが！)歴史教科書で下克上とわざわざ言うことでも分かりますね！
- 学校教育で、他との本当の議論や、他と違うことをやることの重要性を学んでないハンディーは大きいが、日本人の寿命は長いので、こんなSLOWな成長でもいいのかも知れない。気が付いたら、年齢を気にせず活動しましょう！
- 結構年配の方々に元気な人が日本には多いような気がする。
- 和田の経験上では多くの場合「他人と違うことを選択した方が得になるように思う！」
- 他と同じことをするのは「思考」をSTOPしていることで、損して当たり前である！

アメリカ企業と日本企業

- INTEL、CISCO、SUNなど有名な会社が沢山ある。その根底には他と違う＝オリジナルなことをやる精神がある。
- そしてアメリカでは真似をする会社が出てきにくい！真似するとが本質的に出来ない精神風土！
- 成功している会社の真似をして、そこそこ成功していこうという発想が日本では強い！
- 職人の技は教わるのではなく、盗むということが日本では美徳である。したがって、盗めればすばらしいと日本人は思っている。
- しかし、新たなことを作り出せばもっとすばらしい！
- 当然ながら、日本の特許制度も日本流であり、真似をしやすくなっている！

マグナ社の人の集め方

- 結局のところ、人間を動かすのは「金」ではなくて「志の高さ」や「感性」に訴えること。
- まったくの無計画なときから、何故か人は集まってきた。
- 自分が来たことのない沖縄の琉大にやって来れたのも、結局そのとき琉大に非常に熱意のある方がおられたからだ。

マグナ社の金の集め方

- 通常ビジネス計画書等で投資家から金を集めるのが普通のように言われているが。
- 出資 = 会社を好きなようにする権利であり、
- 金目当ての投資家中心では「自分達のやりたいことを、自分達で考え、やりたいようにやる」がやれない！
- まったくのええ加減な計画でも「志の高さ」で最初の資本金を集めた。
- また、「自分達のやりたいことを、自分達で考え、やりたいようにやる」のだから、社員と応援団の出資が中心！
- 第3社割り当てを行ったが、まだVCは入れていない！

株式会社への出資の意味

- 株 = 会社を好きなようにする権利
- VCは公開による金儲けが最終ターゲット:彼らは公開を出口と呼んでいる！
- VCの目的は「永続的に発展する会社設立の目的」と矛盾
- 誰が会社を好きなように運営したいのか？ = > 私たち
- すなわち、私たち自身が出資し、志に同調してくれる出資者が必要！
- **人を動かす「大きな志」が最も重要！**
- **ちなみにマグナの目指すところは？**
 - 21世紀のSONY、PANASONICのような会社を作ること

中坊公平先生のコラムから

「豊島の住民は半年間毎日、船で高松に渡り、県庁前にずっと立って道行く人々に大規模な不法投棄の実態を訴えた。自ら汗をかきながら理解を求めてゆく姿勢は自立心を持つことにほかならない。人間を自立させるのは志の高さだと思う。」

大学ベンチャー：よく見る間違い(1)

- 「ビルゲイツは大学を中退している」これは正しいか？
- 1. 日本では卒業証書で就職が決まり、長期の間の収入等が決まったので、間違いだった！（これからも間違いかも知れない）
- 2. 米国でベンチャーなら、実力も重要であるが、タイミング(開業時期)も重要なので、すぐに大学を辞めて起業するのは正解！
- 日本では1)のケースの人が多いため、ケース2)で成功するには障害(じゃま)が大きく、1)のケースを守ってしまう。
- 自分の心に問いかけよう本来どうあるべきなのか？
- 自分の答えをどうすれば実現できるのか考え、行動しよう！
- 和田は最も精神・文化的に東京と異なる沖縄でやることにした！
- 人は大胆な決断と思うようだ！

大学ベンチャー：よく見る間違い(2)

- ちょっとしたアイデアで、大学を飛び出して自分たちの力で起業するのは正解か？
- 生きてゆくには金が必要、技術開発には設備や人材が必要！
- どうすれば安く(基本的にはダタで)価値のある技術開発をやることができるのか？
- 大学の設備を使えばよい。単位を捨ててもよい。大学にいれば、設備や部屋、エアコンが格安で使える。そして、本当に価値あるものができたなら、その時大学を中退か休学すればよい！

どっちが幸せ？暇と忙しい

- よく「自分のしたいこと」をしよう！と言う
- 「自分のしたいこと」が判らない人が多い！
- これは当たり前である！
- 社会に本当に役に立ち、周りの人たちを幸せにできる活動をしよう！
- そんな時にこそ、心の底から志がわき、一生懸命働くことに幸福を感じることができる。
- 働くことは損ではなく、最高の幸せとなる！

和田がびっくりした 日本人は家畜化しているという話

- NHKである大阪の先生が話していた内容
- 家畜化 = イノシシを豚にすること
- 特徴は以下のようなものになる
 1. 人口環境(ケージ、空調)
 2. 食料の自動供給
 3. 自然の脅威から遠ざかる
 4. 品種改良
 5. 生殖の管理
 6. 身体の変化
 7. 死のコントロール

現在人との比較

- | ■ 家畜の特徴 | ■ 現代人の特徴 |
|-----------------|--------------------|
| 1. 人口環境(ケージ、空調) | 1. 鶏のケージのような都市オフィス |
| 2. 食料の自動供給 | 2. コンビニでの食料の自動供給 |
| 3. 自然の脅威から遠ざかる | 3. 台風、暑さ、寒さに耐える住環境 |
| 4. 品種改良 | 4. 優勢思想 |
| 5. 生殖の管理 | 5. 避妊技術 |
| 6. 身体の変化 | 6. 体毛がすくない |
| 7. 死のコントロール | 7. 安楽死 |

**家畜ではベンチャーはやれない、どうすれば野生化できるのか？
仕事を変え、居場所を変え、苦労し、自分を鍛えよう！**

ややまとめます！

- 米国Fermi国立研究所のG.P.Yeh先生にある社会人が進路に迷って、ある質問をした。
- ある社会人：「このまま会社員を続けるか、一旦会社生活を止めて、大学院で新たな可能性のために勉強するかどっちがよいですか？」
- G.P.Yeh先生の答え：
「What is the most fun?」
- 答えはもちろん楽しいことをやれ！ですが、
- 本当に社会に役に立つことを一所懸命がんばってやることが本当のFUNであることを忘れないでください！決して一時の娯楽ではないです！

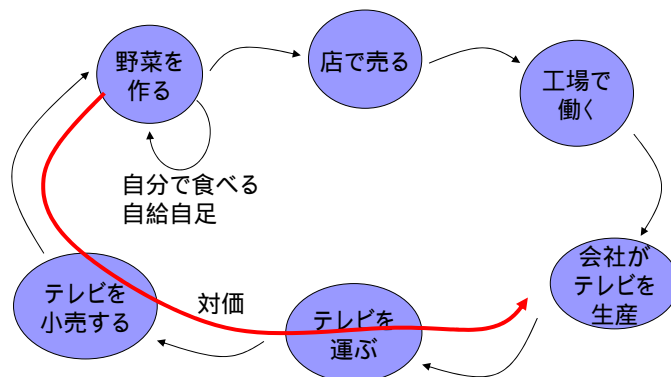
まあ、こんなメンバー & 家族 & 応援団
でやっています！



ベンチャービジネスの論理的に取り扱う

- このセクションでは、これまでの経験やその他の勉強した内容に基づき、これまで述べた断片的な話を極力論理的にまとめる

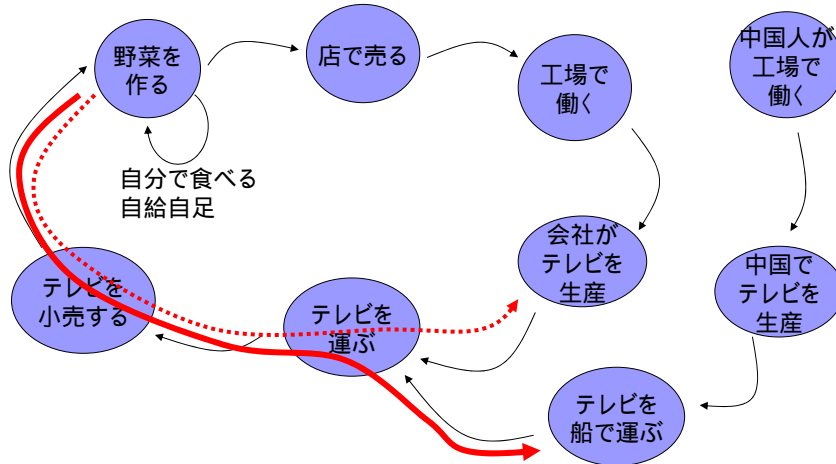
1. ビジネスループ と 相互依存



- 各仕事が生み出し、その価値に顧客が対価を払う
- 矢印方向に価値が循環し、逆方向に対価が循環する
- 各仕事は入力に対して、付加価値を生み出している

競争と相互依存

このようなループが必要
「中国のために何かしよう」



ビジネスとは

- 相互依存ループの一員になること
 - 入力に対して大きな価値を創造し、出力
 - 価値の量はその顧客が決定する
- 競争力がなくなるとループの流れは変化する

・「生存競争社会」のように言われているが、与えられた物の奪い合いではなく、社会(他人、他の会社)に役に立つことを実行し、相互依存・相互扶助でなりたっているビジネスループの一員になる必要がある。

・**ビジネスループに受け入れられるビジネスをやろう！**

・顧客満足 of 目標は必然である。

2. お金 と 志

- 人間を動かすものとして物質欲(お金)があるが、それだけでは多くの人たちのパワーを結集できないことは事例、経験より明らか。
 - 「金の切れ目が縁の切れ目」
 - 政府が良い案を出してもうまく実行されない実態
- マグナ社の事例でも、年代・地域を越えて「高い目のを目指して、新しいことに挑戦しよう」という幹部が結集し、そして会社メンバーが結集した。

高い志が人の心を動かし、そして連鎖する。

- 高い「志」の精神的パワーが、他の人の「心」を動かし、その人変える。(感化)
- 志の高い人は、自立しており、活動するパワーが高く、効率が良い(失敗をくいとめる)。
- 「車で送りましょう」と言うてくる人に、内心「なにか魂胆があるのか？」と考えた後、その人が良心で言っていたことに気がついた時、「自分はなんと狭い心の人間だと」反省し、恥かしくなることがある。
 - 精神的に敗北感を感じる
 - 私利私欲目的のあるなしで行いが同じでもまったく違う

事例

- 真剣に問題に取り組んでいる時には、夜中にその問題の回答が浮かび、目が覚めたことがある。
- 志高く取り組んでいる時には、休みを返上してがんばって働いてもなんの苦勞も感じない。
- 糞をたれるおばあさんと嫁の話
- 夜も寝れないぐらいに悩んだことがある。

•ベンチャーではインセンティブ(お金)がよく議論されているが、現実には成功する確率は低くインセンティブだけでは大きなパワーを生み出せない。

3. 義理心 と 正義心

- アメリカと日本の違い
 1. 学生の留年を良心から助けたが、長年の間に学校のレベルが低下した(日本)
 2. アメリカでは真似をする会社が出てきにくい
いつも他人と違うことをしようとズート考えている
 3. 日本は、上に認められようとする文化で、上を抜こうとする文化ではない
 4. 日本ではそこそこ成功していこうという発想が強い(過剰に他をやっつけてはいけない)
 5. テロに対してのアメリカの行動を日本人は「そこまでよくやるな」と思う。

欧米と東洋の根本的考え方の違い

- 欧米人は人物の善悪の考査する標準を正義におくが、これに反して東洋人は親切もしくは義侠心等を標準として人物を考査する。
- 「正義」すなわち、宇宙自然の摂理からみる高い考えでの正しいことを標準にしなければ、こちらを立てればあちらが立たずのような矛盾が生まれる。
- この点では東洋人より欧米人が大変優れている。
- 東洋人の大いなる欠点を直すべきである。
- もしかしたら、戦前の日本はもっと欧米的考えであったかも知れないが。

正義心で考えれば

1. 学生の留年を良心から助けたが、長年の間に学校のレベルが低下した（日本）
学校の担うべきMISSIONにしたがって、厳格にフェアに対応する
2. アメリカでは真似をする会社が出てきにくい
いつも他人と違うことをしようとズート考えている
3. **真似をして何かを生み出しても社会的全体をみれば何も新たに生み出されていない。やはり真似をするのは卑怯である。**
4. 日本は、上に認められようとする文化で、上を抜こうとする文化ではない
技術や才能で上を越えるものを実現する方が、社会人類のために貢献したことになり上もそれを本来望んでいる。
5. 日本ではそこそこ成功していこうという発想が強い（過剰に他をやっつけてはいけない）
自分達が自分らの得意なところを担当し、他が得意なところを他が担当すれば社会全体をみれば最も効率がよい。各差が生じれば社会保障で埋めるべきであり、社会保障に対して貢献する。

正義心で考えれば2

- アメリカのハイテク産業は知的部分に集中し、アジアを低コスト生産基地に使っていることは不当か？

現実問題として技術レベルの各差が存在する。したがって、ハイテク部分をアメリカが担当し、そのOUTPUTをアジアに提供しアジアに生産という部分でのビジネスループへの参加の機会を与えている。国を超えた、実力に応じたビジネスループを実現しており、地球的にみれば正しい行いと言える。

- 地球的に考えると、世界一金持ちの国日本が中国からの輸入制限をすることは正しいか？

質問

- 「正義心」「本当に正しい気持ち」で判断したことには、信念がもて、高い志をもてる気がするが、どうか？
- 正義は必ず勝つと言っても当たり前の気がしてくる。

•正義心で考えることで、高い志、信念を生み出せる
•そして、それが本当のパワーを生み出す

4.教え と 自分で考えての実践

■ 前項の難問

- ☐ テロに対してのアメリカの行動を日本人は「そこまでよくやるな」と思う。
- アメリカのテロに対する戦争行動は「宇宙的な視点から見て」正義か正義でないか？
- ニューヨークでテロの犠牲になった家族から見れば正しいことかどうか？

答えが重要ではなく、考えることが重要

- 「戦争 = 悪いこと」信じているならば、すぐさまそう答えるであろう
- しかし、答えは神のみぞ知るような難しい問題である
- 「正義」を神に変わって判断するならば、テロリスト達の考え、アメリカ人の考え、文化、宗教の違い、経済格差、これまで経緯・歴史を本来すべて調べて考えなければならない。
- 本当は彼らと接し、体験し、長期に渡って調査しなければならないであろう。
- 「正義を判断する」、「神に変わって判断する」という考えと態度が、「考えて悩んで新しい物を生み出す」習慣を作り出していく。
- 「本当に悩んで努力して得た結論」でないと、逆に答えに信念を持てない。すなわち「正義」とは呼べなくなってしまう。

不幸にも

- 議論せよ！というが議論できない日本人
考え方をあまり知らない日本人
で述べたように、労力を使って考える習慣がない。
- 単に「考えろ」と言っても実行できないであろう。
- 根本的に「正義心」で考える習慣をつけ、考えることが行動よりもより重大で労力に必要なことを実感する必要がある

- 考えることは労力が必要なことである。
- 労力を使って考えないと、実践にも労力を裂けない。

質問(ディベートねた)

- 鈴木宗男さんは良いか悪いか
- 日米安保条約は良いか悪いか
- 沖縄に米軍が75%集中しているがこれでよいか
- 現在日本の大学の制度、授業方法はこれで良いか
- 小泉内閣はよくやっているか
- 高速道路は民営化するべきか
- この講義を受ける時のあなたの態度、参加の仕方は正しいですか

- 自分の頭にエネルギーを消費させて考えてますか？

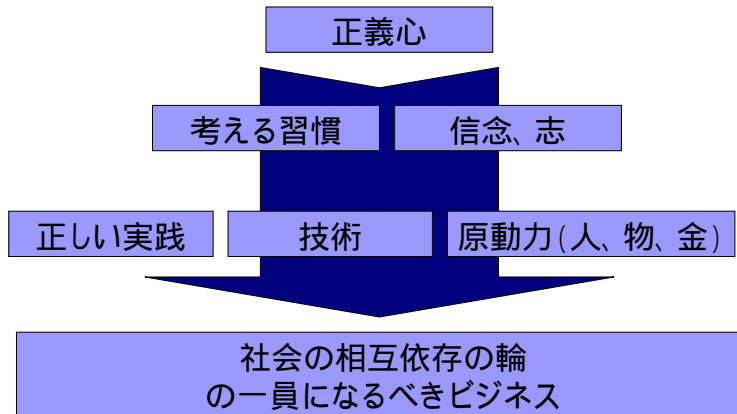
5.土壇場での行動 と 誓い

- 前半で以下のような話をしました
 - 「失敗するにしても、前向きに倒れる」
「あなたの行動を誰かが見ている、前向きに倒れなければ誰も助けてくれない」
 - すなわち、自分達のやりたいことを自分達の方法で実行し、結果を出す精一杯の努力を続ける必要がある。
 - 他を頼りながらの失敗は「後ろ向き」の失敗であり、安全弁が働かない。
 - 「前向きに倒れる」ことにより安全弁があることを信じることで、精神の安定を保ってきた。
 - 努力して本当に有効な技術を保有することで、自分達の価値を高めることで、その価値により自分達の生存意義があることを信じることで、精神の安定を保っている。

土壇場での行動が重要

- 宇宙的視線の正義感に基づき、
労力をつぎ込んで考えた結果の
技術や行動内容を実践し、
高い信念と志で仲間を増やし、金を集め
社会の一員となるべきビジネスを展開しているつもりでも
- 本当にそのようにやれてるかどうかは、
本当に苦労している時に何を実践するかでわかる
- 本当に苦しい時に「いさぎよく」「逃げずに」実行できるビジネスを展開しなくてはならない。

精神面のまとめ



でかいことをやるには、宇宙的に大きな心の原動力を持つ必要がある。残念ながら、現在の日本人にはややかけているようだ。

まとめ

- よく、ベンチャーの問題点として「資金調達」「マーケティング力の確保」等のうわべの問題が議論されるが、うわべの問題はやはり根底にある問題に起因しているように思う。
- 今回の実践論では自分達の体験をもとに、主にベンチャービジネスをやる精神面の話をした。
- ベンチャービジネスによる経済再生がよく目的になるが、本当は精神の再生なのかもしれない。
- ベンチャービジネスをやることはそのような貴重な「チャンス」を与えられたことであり、苦労を「喜び」と思う気持ちで取りくんほしい。

創業から守成への和田の志

- 守成とは「創業を受け継ぎ事業を守る」こと
- よく「創業はやさしく、守成は難しい」と言われる
- 創業前より赤坂さんより指摘されている点である
- マグナ社の正義を再度確認しようと思う
 - 次世代通信システムでの高性能・最先端LSIを提供し、社会の発展に貢献する。精神的な豊かさを持ち、個人の能力を最大限に発揮させ世界トップレベルの競争力で、独自の市場を確立する。
 - 過激に挑戦し、全てを切り開き、変えていく。
 - 新たな世界に立ち、さらに次の世界を見る。
- 和田個人としては「21世紀を代表する理想の会社を作りたく思っている」ので、過剰な利益を得たならば、これまでお世話になった社会・人々にすべて還元しようと考えている。
- 逆にこのような考えを持たなければ会社は成功していかないように信じている。